

ムラビトのひとり

縄文時代のことはほとんど知らない私が、少し学んでみたい気持ちになったのは、下野谷遺跡が国史跡指定された時でした。西東京市報で見た「ムラびと募集」に好奇心と興味があり応募しました。後日「したのやムラびと証」が送付されて来た時は感動を覚えました。

令和4(2022)年のお手伝い

- 5月「下野谷遺跡特別展」職員の方々の説明を聞いて縄文時代中期の下野谷の環境や生活様式、土器の成り立ちを学びました。
- 9月「ドキドキ土器洗い」西原の郷土資料室にて初体験させて頂きました。洗うのにあんなに気を使ったのは初めてでした。
- 10月「第16回縄文の森の秋まつり」まつり会場のお手伝い。
- 11月「下野谷遺跡 草むしりチャレンジ」案内を頂いた時には、田舎の畑の草むしりを思い出し、中腰に自信がなかったので躊躇しましたが、実際は落ち葉清掃で安堵しました。

今年春には竪穴式住居が完成します。そして近くに「縄文ふるさと館(勝手な想像)」が出来て、石神井川にははたがる飛び交い、公園の空には星座が舞い、周りにはドングリ、くるみ、くりなどの木からサラサラと音が聞こえる日が来ることはそんなに遠くはないと思います。西東京の憩いの場所、新名所となりましょう。

泉町在住 男性



My favorite photo

わたしのお気に入りの1枚



下野谷遺跡の近くの石神井川で見つけた鴨です。写真を撮るのが好きです。遺跡の辺りは興味ある被写体が多いので、楽しく撮影しています。



このコーナーでは、掲載する写真を大募集しています！  
下記メールアドレスまで、お送りください。お待ちしております！  
✉ syakyou@city.nishitokyo.lg.jp



日ごとに春めいてまいりましたが、みなさんにおかれましてはお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。ここに、したのやムラだより、第4号をお届けさせていただきます。

さて、下野谷遺跡では縄文時代の下野谷ムラを復元工事中でございます。今回のしたのやムラだよりでは、復元中の竪穴式住居などの工事状況を主にお知らせしますので、どうぞお楽しみください。

したのやムラの住宅事情



下野谷遺跡は今から5,000年近く前から1,000年続く縄文時代のムラの跡です。

長い時間の中に土が積もり、木や草などの有機物はなくなってしまいました。ですから発掘調査で見つかるのは、縄文人が置いた石や炭になって残った木、そして掘った穴とそれを埋める土の層くらいなのです。そういった痕跡を丹念に調べて、さらに、現在もある様々な家と比べて、家全体の形や作り方を考えていきます。

これまで、復元される住居の多くは草葺きでしたが、近年の研究では、住居を埋めた土の状況などから、屋根に土が乗せられた「土葺き」屋根が作られていた可能性がわかってきました。そこで、今回のしたのやムラの住居は土屋根で復元しました。家の中には火をたく炉があり、そこには灰をためる土器が埋められていることもあります。また、一つの住居は柱と柱の間に細い溝があったので木を置いてその奥に敷物を敷きました。敷物は「編布(あんぎん)」といって糸を編んでつくったものです。柱の本数も住居ごとに異なります。完成したら2軒の住居の違いをよく観察してみてくださいね！



- しーた：夕焼けがきれいだね！家からおいしい、ししなべのおいしい！
- のーや：昨日、落とし穴にかかっていたのをみんなで分けたからね。うちは8人分！
- しーた：今、ムラには8軒家があって60人が住んでいるよ。
- のーや：みんなにお肉が分けられてよかったね！



©T&K/西東京市

お知らせ

皆様、大変おまたせいたしました。令和5年3月末日をもって、竪穴式住居2棟と、土器溜まり(土器が集積して廃棄された場所)が復元されます。

竪穴式住居は通常は中に入れません、イベント等の際は開放する予定となっております。

皆様、ぜひとも見に来てください。ここまで来れたのも、皆様のご声援、ご協力のたまものがございます。

今後とも下野谷遺跡をよろしくお願ひ申し上げます。

したのやムラだより vol.4 (2023/3)

発行：西東京市教育委員会 教育部 社会教育課 文化財係

☎ 042-420-2832

✉ syakyou@city.nishitokyo.lg.jp

H P:



したのやムラだよりでは今後も、したのや遺跡の魅力や活動の成果について、定期的にご紹介いたします。お楽しみに！

## 遺跡整備のあらまし

下野谷遺跡では、「下野谷遺跡整備基本計画」に沿って遺跡の整備をしています。令和4年度は、①竪穴式住居2棟、②土器溜まり1基の復元展示に取り組んでいます。

本稿の執筆時点（令和5年1月）で、竪穴式住居は棟上げが完了し、屋根工事に取掛かっています（写真参照）。土器溜まりについては、展示する模型の3Dデータの作成が完了しています。設置する場所は、実際にこれまでの発掘調査で住居の跡が確認できた地点の上で、完成後は下野谷遺跡の景観が大きく変わり、これまで以上に縄文時代を身近に感じていただける場所になることと思います。竪穴式住居は、専門家から成る第三者委員会にも設計を確認いただき、縄文時代に植生が確認でき、下野谷遺跡で見つかった炭化材の多くを占めるクリなどの木材を使用して復元することとしています。

安全管理を目的として基本的には施錠をする形となりますが、イベントなどのときには専門職員の立ち会いのもとに開放し、実際に内部に入っただき、当時の住居を感じていただく予定です。

土器溜まりは、発掘された住居跡から大量の土器が出土したことを復元するものですが、当時、その場所がどのような意味を持っていたのかはまだわかりません。

当時の人々の暮らしについて、実際に復元土器などに触れていただき、五感で下野谷遺跡への愛着を更に深めていただけたらと思っています。



復元住居の屋根工事



土器溜り展示用模型

したのや縄文里山プロジェクト  
東京に縄文のムラを作ろう！

整備地全体の造成や竪穴式住居などの展示物をつくる1期整備がほぼ完了、4月からは並行して「みんなで史跡を育てる」2期整備が始まります。したのやムラでやりたいことをどんどん提案してください！

例えば、ムラびとかめしーた（市の学芸員）からの提案は・・・！

### ① 整備地に愛称をつけよう！

「下野谷遺跡整備地」なんて少し堅苦しい感じで、縄文のムラをイメージしにくいと思いませんか。たくさんの人に好きになってもらえるような愛称を募集します。詳しくは4月15日号の市報やHPをみてください。

### ② 縄文の植物を育てよう！

縄文時代には水田稲作のような農耕はまだ行われていませんが、食べたり利用したりできる植物をムラの近くで管理していた可能性が、最新の研究では示されています。下野谷遺跡出土の土器には野生のダイズやアズキの跡が見つっています。

そこで、整備地でもそれらを育ててみましょう。第1回の活動は同封のチラシでご案内しています。

### ③ 竪穴式住居復元プロジェクト（仮称）

素敵な縄文の家が完成。自分たちでも作ってみたいと思いませんか。縄文の家づくりがしてみたい仲間集合です！今年度は縄文時代の家についてみんなで勉強しましょう！第1回活動は5月1日の市報やHPでご案内予定です。

私たちの住んでいた  
場所にどんな名前が  
つくのかなあ



他の遺跡ではどんな  
復元をしているかも  
知りたいね

## イベント報告

# 第16回 縄文の森の秋まつり

秋晴れに恵まれた昨年10月2日（日）に、下野谷遺跡の恒例イベント「縄文の森の秋まつり」が3年ぶりにリアル開催されました。

約30もの団体が「したのやムラ」に戻ってきて、1,000人近い人たちが集まってくれました。

わー！  
切れる、切れる！



火起こし体験にチャレンジだ！  
板の上で棒を回すと、だんだん  
煙がきました。



「ココスポ！じょうもんず♪」  
のしたのや縄文体操で、おまつり  
がスタート。



迫力ある動き、華麗な舞姿。  
「よさこい演舞」がまつりを  
一気に盛り上げます。



大人気の「縄文石器パフォーマンス」  
では、石器でお魚の解体を実演。



おなじみの「土偶マイム」  
は子供の人気者。



見て、遊んで、体験して、縄文を身近に  
感じることができた秋の一日でした。

